

Agentless Management Service (AMS)

ご使用時の注意事項

iLO7 を搭載した Express5800 シリーズのサーバーでは、Agentless Management Service (以降、“AMS” と称します) は、iLO 仮想 NIC(vNIC)を使用して iLO と通信を行います。vNIC を使用した通信には、AMS アプリケーションアカウントが必要となります。

そこで、Starter Pack を使って Standard Program Package を適用後、もしくは AMS を個別にインストールした後、下記<1AMS アプリケーションアカウント作成手順>を参照して、AMS アプリケーションアカウントを作成してください。



ヒント

AMS アプリケーションアカウントを作成しない場合、OS 起動(AMS サービス開始)毎に、iLO アカウント情報(ユーザー名、パスワード)を設定する必要があります。
具体的な操作は、<2.5.2 対処>を参照願います。



ヒント

一度 AMS アプリケーションアカウントを作成したならば、Standard Program Package もしくは AMS を更新しても、新たに AMS アプリケーションアカウントを作成する必要はありません。

1. AMS アプリケーションアカウント作成手順

1.1. TPM Visibility の設定

AMS アプリケーションアカウントは、アカウント情報を安全に保存するため、Trusted Platform Module (TPM) を使用します。そのため、AMS アプリケーションアカウントを作成する前に、以下の設定を行います。

- (1) サーバーを電源 ON して、POST 実行時に、<F9>キーを押下し、System Utilities を起動します。
- (2) System Utilities において、{ System Configuration → BIOS/Platform Configuration (RBSU) → Server Security → Trusted Platform Module Options → Advanced Trusted Platform Options} へと進みます。
- (3) 『TPM Visibility』オプションを『Visible』に設定します。
- (4) <F10>キー、または<F12>キーを押下して設定を保存した後、サーバーを再起動させます。

1.2. AMS アプリケーションアカウントの作成

amscli コマンドを使用して、AMS アプリケーションアカウントを作成します。
具体的な手順は下記の通りです。

- (1) 下記コマンドを実行して、AMS アプリケーションアカウントを作成します。

【Windows OS の場合】

コマンドプロンプトを開き、“¥Program Files¥OEM¥AMS¥Service¥” パスへ移動し、下記コマンドを入力して実行します。

```
# amscli appaccount create -u <iLO_username> -p <ilo_password>
```

【Linux OS の場合】

コンソール端末を開き、下記コマンドを入力して実行します。

```
# amscli appaccount create -u <iLO_username> -p <ilo_password>
```

- (2) コマンドプロンプト、コンソール端末において、プロンプトに戻ったならば、下記メッセージが表示されていることを確認します。

【Windows OS、Linux OS 共通】

```
Account created Successfully.
```

または、

Application account successfully created on iLO and stored in TPM.

- (3) iLO Web インターフェースにて、AMS アプリケーションアカウントが登録されていることを確認します。
具体的には、iLO Web インターフェースのナビゲーションペインにて [iLO 設定] をクリックし、iLO 設定画面にて [ユーザー管理] → [ユーザー] へと進みます。
そして、[アプリケーションアカウント] セクションに、『**アプリケーション名 : AMS**』が登録されていることを確認します。



重要 上図 [アプリケーションアカウント] セクションにおいて、トラブルシューティング以外の目的で、AMS アプリケーションアカウントの削除（ゴミ箱アイコンを押下）を行わないでください。
もし行ってしまった場合、アプリケーションアカウント情報の不整合が起り、AMS が正しく動作しない場合があります。

- (4) iLO 仮想 NIC(vNIC)を介して AMS と iLO が通信可能状態であることを確認します。
具体的には、iLO Web インターフェースのナビゲーションペインにて [ダッシュボード] をクリックし、ダッシュボード画面の [ホストの概要] セクション内の『AMS』項目が『OK』となっていることを確認します。





AMS 状態が OK になるまで、数分から 30 分程度かかる場合があります。



AMS と iLO が通信不可能な状態だと、『利用不可』と表示されます。

2. トラブルシューティング

2.1. AMS 状態が OK にならない

2.1.1. 現象

AMS をインストールし、AMS アプリケーションアカウントを作成したが、iLO Web インターフェースにて、AMS 状態が OK にならない。

2.1.2. 対処

下記 [対処 A] → [対処 B] → [対処 C] の順序で試みてください。

[対処 A]

iLO をリセットします。

具体的には、iLO Web コンソールのナビゲーションペインにて [iLO 設定] をクリックし、iLO 設定画面の [クイックアクション] セクション内の [iLO をリセット] をクリックします。



ヒント

iLO がリセットされると、iLO Web インターフェースがログイン画面に切り替わり、再ログイン可能になるまで約 3 分位かかります。
よって、約 3 分位経過した後、再度 iLO Web インターフェースに接続してください。

[対処 B]

AMS サービスを再起動させます。

【Windows OS の場合】

[Windows の管理ツール] もしくは [Windows ツール] → [サービス] をクリックし、“Agentless Management Service”を右クリックして、[再起動] をクリックします。

【Linux OS の場合】

コンソール端末を開き、下記コマンドを入力して実行します。

```
# systemctl restart smad  
# systemctl restart amsd
```

[対処 C]

サーバー(OS)を再起動させます。

2.2. アプリケーションアカウント作成にて無応答

2.2.1. 現象

AMS アプリケーションアカウント作成コマンドを実行したが、応答なく、プロンプトに戻らない。

2.2.2. 対処

iLO 仮想 NIC(vNIC)が有効になっているかをご確認ください。

iLO 仮想 NIC(vNIC)の確認方法は、「iLO 7 ユーザーズガイド」を参照してください。

「iLO 7 ユーザーズガイド」は、下記より入手できます。

NEC コーポレートサイト(<https://www.support.nec.co.jp/>)

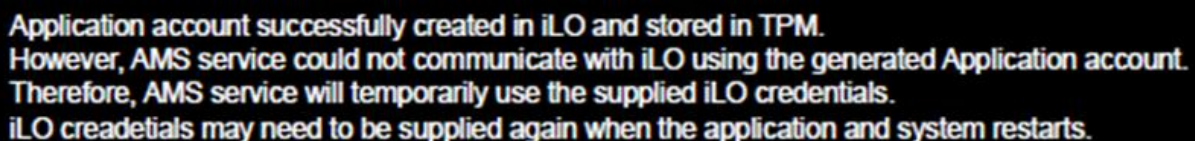
「NEC サポートポータル内検索」より、以下の ID で検索してください。

R32Bb-E2 : 3170103113

2.3. アプリケーションアカウント作成にて不審メッセージが表示された(A)

2.3.1. 現象

AMS アプリケーションアカウント作成コマンドを実行したら、下記のメッセージが表示された。



Application account successfully created in iLO and stored in TPM.
However, AMS service could not communicate with iLO using the generated Application account.
Therefore, AMS service will temporarily use the supplied iLO credentials.
iLO credentials may need to be supplied again when the application and system restarts.

<メッセージの説明>

AMS アプリケーションアカウントの作成には成功しましたが、作成した AMS アプリケーションアカウントを使って、iLO と AMS が通信できていない状態です。この場合、作成時に入力した iLO の認証情報を使って一時的に iLO と AMS が通信可能になりますが、OS を再起動すると、iLO と AMS が通信不能となり、AMS が利用できなくなります。

2.3.2. 対処

作成した AMS アプリケーションアカウントを一旦削除して、再度、AMS アプリケーションアカウントを作成します。

具体的な手順は下記の通りです。

-
- (1) iLO に登録されている AMS アプリケーションアカウントを削除します。
具体的には、iLO Web インターフェースのナビゲーションペインにて [iLO 設定] をクリックし、iLO 設定画面にて

[ユーザー管理] → [ユーザー] へと進みます。

そして、[アプリケーションアカウント] セクション内に在る『**アプリケーション名 : AMS**』の右端に在るゴミ箱アイコンをクリックします。

- (2) TPM に登録されている AMS アプリケーションアカウントを削除します。
具体的な操作は下記の通りです。

【Windows OS の場合】

コマンドプロンプトを開き、下記コマンドを入力して実行します。

```
# amscli appaccount delete
```

【Linux OS の場合】

コンソール端末を開き、下記コマンドを入力して実行します。

```
# amscli appaccount delete
```

- (3) AMS アプリケーションアカウントを再作成します。
-

2.4. アプリケーションアカウント作成にて不審メッセージが表示された(B)

2.4.1. 現象

AMS アプリケーションアカウント作成コマンドを実行したら、下記のメッセージが表示された。

```
AppToken creation failed.  
Therefore, AMS service will temporarily use the supplied iLO credentials.  
iLO creadetials need to be supplied again when the application and system restarts.
```

<メッセージの説明>

AMS アプリケーションアカウントの作成に失敗し、iLO と AMS が通信できていない状態です。この場合、作成時に入力した iLO の認証情報を使って一時的に iLO と AMS が通信可能になりますが、OS を再起動すると、iLO と AMS が通信不能となり、AMS が利用できなくなります。

2.4.2. 対処

作成した AMS アプリケーションアカウントを一旦削除して、再度、AMS アプリケーションアカウントを作成します。
具体的な手順は、<2.3.2 対処> を参照してください。

2.5. TPM Visibility 設定値を『Hidden』に設定したい

2.5.1. 現象（やりたいこと）

System Utilities における下記オプションの設定値を『Hidden』に設定したい。

{ System Configuration → BIOS/Platform Configuration (RBSU) → Server Security → Trusted Platform Module Options → Advanced Trusted Platform Options → TPM Visibility }

2.5.2. 対処

当該 TPM Visibility 設定値を『Hidden』に設定した場合、iLO と AMS が通信不能となり、AMS が利用できなくなります。

そこで、OS 起動(AMS サービス開始)毎に、下記コマンドを実行し、iLO と AMS を通信可能な状態にしてください。

【Windows OS の場合】

コマンドプロンプトを開き、下記コマンドを入力して実行します。

```
# amscli set -u <ilo_username> -p <ilo_password>
```

【Linux OS の場合】

コンソール端末を開き、下記コマンドを入力して実行します。

```
# amscli set -u <ilo_username> -p <ilo_password>
```

2.6. TPM クリアを実行した

2.6.1. 現象（実施したこと）

TPM クリアを実行した。

具体的には、System Utilities において、

{System Configuration → BIOS/Platform Configuration (RBSU) → Server Security → Trusted Platform Module Options → TPM 2.0 Operation} を [Clear] に設定した。

2.6.2. 対処（実施すること）

iLO に登録されている AMS アプリケーションアカウントを一旦削除して、再度、AMS アプリケーションアカウントを作成してください。

具体的な手順は下記の通りです。

-
- (1) iLO に登録されている AMS アプリケーションアカウントを削除します。
具体的には、iLO Web インターフェースのナビゲーションペインにて [iLO 設定] をクリックし、iLO 設定画面にて [ユーザー管理] → [ユーザー] へと進みます。
そして、[アプリケーションアカウント] セクション内に在る『**アプリケーション名 : AMS**』の右端に在るゴミ箱アイコンをクリックします。
 - (2) AMS アプリケーションアカウントを再作成します。
-

2.7. iLO 設定を工場デフォルト値に変更した

2.7.1. 現象（実施したこと）

iLO 設定を工場デフォルト値に変更した。

具体的には、System Utilities において、

{System Configuration → BMC Configuration Utility → Set to factory default} を [YES] に設定した。

2.7.2. 対処（実施すること）

TPM に登録されている AMS アプリケーションアカウントを一旦削除して、再度、AMS アプリケーションアカウントを作成してください。

具体的な手順は、下記の通りです。

-
- (1) TPM に登録されている AMS アプリケーションアカウントを削除します。
具体的な操作は下記の通りです。

【Windows OS の場合】

コマンドプロンプトを開き、下記コマンドを入力して実行します。

```
# amscli appaccount delete
```

【Linux OS の場合】

コンソール端末を開き、下記コマンドを入力して実行します。

```
# amscli appaccount delete
```

(2) AMS アプリケーションアカウントを再作成します。

2.8. OS を再インストールしたい

2.8.1. 現象（やりたいこと）

OS を再インストールしたい。

2.8.2. 対処

OS 再インストール前に、<2.3.2 対処>に記載する (1) → (2) 操作を行って、AMS アプリケーションを削除してください。

そして、OS 再インストールを行い、Starter Pack を使って Standard Program Package を適用後、もしくは AMS を個別にインストールした後、AMS アプリケーションアカウントを再作成してください。

改版履歷

初版 2026/5/29 初版